

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：長崎県長崎市

概要：

当団体は、長崎市において、住まいづくりとコミュニティづくりを融合した新しい住環境整備手法としてのコーポラティブ住宅の有効性を提案し、2003年、斜面地を活用した長崎市初のコーポラティブ住宅「コーハウス南山手」を完成させました。助成対象活動では、そのノウハウを活用し、第2号のコーポラティブ住宅の建設をめざす活動を展開しました。例会やニューズレターの発行などの定常的な活動に加え、より多くの人たちにコーポラティブ住宅の魅力をわかりやすく紹介するためのパンフレットの作成、シンポジウムの開催を行うとともに、「コーハウス南山手」の建設の記録を書籍として取りまとめ、出版しました。団体設立から3年余をかけて完成させた「コーハウス南山手」に関する資料を整理し、ノウハウを取りまとめることができたことは、第2号建設に向けての大きな成果でした。

〔長崎にコーポラティブ住宅をつくる会〕

- ・ 代表者：鮫島 和夫
- ・ 連絡担当者：山崎 健一
- ・ 連絡先：〒850-0932 長崎県長崎市東琴平2-8-8 コーハウス南山手
- ・ TEL：095-811-2669
- ・ FAX：095-811-2669
- ・ E-mail：DZF13314@nifty.ne.jp
- ・ ホームページ：http://www.co-house.jp/

1 団体の目的と経緯

目的：

コーポラティブ住宅づくりを進めることにより、健康的で文化的な生活を拡充する

経緯：

長崎伝習所の塾長が、長崎でコーポラティブ住宅をつくろうと卒業生に声をかけたことがきっかけで設立された。

長崎は、坂のまちです。すり鉢のような斜面が重なり合い、平坦地は港を囲むごくわずかな部分です。坂にそって狭い道路や階段が伸び、その沿道に家々が建ち並ぶ...独特の景観と情緒を醸し出しています。

「長崎にコーポラティブ住宅をつくる会(以下「つくる会」)」は、その名のとおりの長崎に「コーポラティブ住宅をつくろう」という目的を掲げて結成されました。メンバーの多くは、市民と行政の協働の場として設けられた「長崎伝習所」(注)のエコ・デザイン塾やコーポラティブ住まい塾などの卒業生です。エコ・デザイン塾の塾長を永く務めた建築家の渡部雅弘氏が、「研究や議論だけで終わるのではなく長崎にもコーポラティブ住宅をつくってみよう」とつぶやき、それを聞きつけたT夫妻が「ぜひ建てたい」と渡部氏に電話されたのが、会結成の契機となりました。その後長崎県住宅課の主催する「ながさき住まい・まちづくりリレーイベント」で延藤安弘氏の講演を聴いたり、九州ではじめてのコーポラティブ住宅・熊本Mポートの磯田節子氏のアドバイスを受けながら、メンバーをひとり、またひとりと集め、総勢26名で正式な会結成となりました。しかし結成当初、コーポラティブ住宅を建てると固く決めていたのは、T夫妻一世帯のみで、ほとんどは自称「建設応援団」という状況でした。長崎ではじめてのコーポラティブ住宅建設は、こうしてはじまりました。

つくる会結成から月1回を目途に例会や現地調

査、交流を深めるイベント等を重ねてきました。例会では、市内外の空き地を探してまわり、少しでも気に入った土地があれば、ケーススタディを試みました。このケーススタディを通じて、お互いの考え方や気分が分かり合えるようになりました。こうして2001年6月には第1号プロジェクトの参加者が、5所帯に確定できました。

しかし、いろいろのある居間をつくりたいと張り切っていたSさんが同年8月に病気で急逝され、残された夫人も心労と家族の心配を気にされて最終的に断念されました。一番積極的だったT夫妻は、9月に夫が単身長期海外出張することになり、夫人ひとりでは子育てと家づくりはできないと断念されました。このような波瀾万丈の諸事情により2002年5月最終的に鮫島一家、鈴田夫妻、山崎一家の3世帯9人と犬1匹という最小規模での建設となりました。

この間、何度も建設地について論議を重ねてきました。市街地の中心部に位置し、利便性が高く、長崎らしい港の見える斜面地に惹かれ、現在地を勝手に特定しました。この土地は、観光名所であるグラバー園の上にあり、自動車は進入できません。しかし長崎市が建設した斜行エレベーターと垂直エレベーターによって垂直移動が容易なため、斜面地の困難が軽減されています。高齢になっても比較的安心に暮らせる土地と言えます。都市計画的には風致地区内のため、建ぺい率や壁面後退など厳しい建築制限を受けることになりました。

つくる会のメンバーが、資金計画から基本計画などで総力をあげて援助し、第1号プロジェクトをサポートしました。その後基本設計・実施設計に入り、見積、入札で施工業者を選定しました。2002年11月、3世帯共同でのヨイトマケをメインに起工式を開催し、アフリカンドラムやバリダンス等で大いに盛り上がりました。

全体的話し合いでこの第1号プロジェクトを「コーハウス南山手」と名付けました。工事は、資材の運搬など坂のために難航しましたが、職人さんたちの奮闘で2003年7月に全体が完成しました。ご近



市街地の高台に位置するコーハウス南山手



コーハウス南山手からの夜景

所のみなさんを招いての内覧会やバーベキューパーティなどで完成を祝いました。

第1号棟の建設過程は、地元マスコミの取材も受け、長崎放送や長崎文化放送の番組やニュースで報道されました。2004年12月には長崎新聞社から『アカの他人とマイホーム - 夢のマイホーム「コーハウス南山手」奮闘記』(長崎新聞新書014)として発行することができました。

(注) 長崎伝習所

「長崎伝習所」は、長崎市が1986年度に人材ネットワークづくりと、地域の活性化を目的に設立しました。当初は、「ハイテク塾長崎伝習所」の名称で異業種交流の場でしたが、87年度には「国際交流」、「食文化」、「女性の視点での地域再発見」などをテーマとする塾が生まれ、88年には国の「ふるさと創生資金」を「長崎伝習所基金」として活用することになりました。

こうして、91年度から「長崎伝習所」は市民と行政の協働の場としてまた、長崎を創造、発展させる人材の育成と施策を生み出す場として再整備され、現在にいたっています。

この結果、様々な自主活動グループが生まれ、長崎のまちづくりに各分野で活躍を続けています。2004年度までの19年間で174塾が設置され、塾卒業生総数は延べ6,500人です。詳しくは、<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/denshusho/>をご覧ください。

2 活動の内容

この1年間の活動は、2号棟建設へ向けての準備と1号棟「コーハウス南山手」建設記録の整理が主な活動となりました。

(1) 例会

計7回の例会を開催しました。参加者が来てよかったといえる例会をめざして、スライド会やワークショップなど内容の充実を図りました。



例会の様子
パンフレットの内容を検討中

今年度は、コーハウス南山手の建設を検証しながら、コーポラティブ住宅の魅力について様々な角度から検討しました。その成果をパンフレット「みんなで作るすてきな住まい - 自分流の暮らしをコーポラティブ方式でつくりますか?」にまとめました。また、コーハウス南山手竣工記念パーティやつくる会結成記念企画等のイベントの準備も行いました。

(2) 事務局会議

つくる会の運営を円滑にするため事務局会議を頻繁に開催しました。例会の準備やコーハウス南山手建設奮闘記の編集、パンフレットの編集など事務局員の奮闘が支えとなりました。

(3) かわら版の発行

活動記録及び広報紙として「かわら版」を発行しました。通算73号の発行でしたが、今年度は計9号にとどまりました。例会時の発行をめざし、前回の例会での内容を中心に編集しました。参加できない会員には、つくる会の状況を伝える重要なメールとなりました。また、ホームページにも随時掲載することにしました。

(4) ホームページの運営

コーポラティブ住宅の魅力を広く発信するためにホームページを開設、不定期ですが更新しました。コーポラティブ住宅の概要、1号棟の建設過程などを掲載しています。このホームページを見て、ぜひ参加したいというご夫婦がありました。

また、BBSのコーナーも用意して、かわら版よりも早く近況報告など見ることができるようになりました。熱心な常連客もいますが、まだまだ広がっていません。

全国のコーポラティブ住宅をつくっている団体と連携をとり、周知をはかりたいと考えています。詳しくは、<http://www.co-house.jp/>をご覧ください。



完成したパンフレット
「みんなで作るすてきな住まい」

(5) パンフレットの制作

より多くの人々にコーポラティブ住宅の魅力を分かりやすく紹介することを目的にパンフレットの制作に取り組みました。戸建て住宅タイプ、集合住宅タイプ、複合体タイプ、単身者タイプ、再生タイプと現在考えられるあらゆるタイプの住宅でのコーポラティブ方式での可能性を検討し、事例も含めて紹介するものとししました。手頃な大きさのA5版20ページ(カラー)で、機会ある毎に普及できるものとししました。

結成5周年記念企画で「みんなで作るすてきな住まい - 自分流の暮らしをコーポラティブ方式でつくりませんか?」として発表しました。

(6) 結成5周年記念企画・みんなで作るすてきな住まい

3月13日に長崎にコーポラティブ住宅をつくる会結成5周年記念の講演会を開催しました。場所は、結成総会を開いた市民会館会議室。2号棟建設に向けて新しい出発を期しての開催です。まず、つくる会の第1号プロジェクト「コーハウス南山手」のできるまでをビデオで紹介。作成したパンフレット「みんなで作るすてきな住まい」も紹介しました。

次に記念講演としてVANS代表・伴年晶さんにこれまで手がけたコーポラティブ住宅16プロジェクトの経験を踏まえ、「ハッピーング・アーキテクチュア」と題して、「家づくりをする人たちの心底の思いを先入観なく形にしてゆくシステムをもてば、自ずと形は現れる」という話をさせていただきました。多様な事例が示され、とても勉強になりました。

その後場所をかえて、懇親会をしました。期せずして恒例の鍋がお膳に並び、感激。2号棟への参加を検討されているS夫妻も参加され、交流を深めました。

(7) コーハウス南山手建設の記録『アカの他人とマイホーム - 夢のマイホーム「コーハウス南山手」奮闘記』の発刊

事務局で長崎で初めてのコーポラティブ住宅の建設過程を記録しておきたいと議論している時に長崎新聞社からコーハウス南山手の建設記を新書で発刊しないかという話が舞い込みました。これまでの経過を整理し、資料や写真を集め、構成を検討しました。当初時系列の構成から大幅に変更して、・コーポラティブ住宅の概要、・コーハウス南山手の建設過程、・住人と関わった会員の手記という3部構成になりました。図面や写真を多数掲載し、見るだけでも楽しい本となりました。原稿に着手してから約1年経過した2004年12月16日に『アカの他人とマイホーム - 夢のマイホーム「コーハウス南山手」奮闘記』として発刊することができました。

3 活動の成果

つくる会では、結成から3年余りの歳月をかけてついに第1号棟コーハウス南山手を完成させました。今年度の活動は、コーハウス南山手に関わる資料等を整理し、2号棟建設に向けてノウハウをまとめる作業を行いました。この成果は、『アカの他人とマイホーム - 夢のマイホーム「コーハウス南山手」奮闘記』、コーポラティブの住宅の可能性を解説したパンフレット「みんなで作るすてきな住まい - 自分流の暮らしをコーポラティブ方式でつくりませんか?」にまとめることができました。

4 今後の取り組み

つくる会は、「会員相互の協力援助によって住宅建設組合を生み出し、長崎で、コーポラティブ住宅づくりを進め、よりよい家づくりをめざし、健康的で文化的な生活を拡充すること(会則第1条)」を目的としています。

つくる会では、この間コーハウス南山手の竣工パーティなどイベントを通じて2号棟建設に向けての入居者の顔合わせなどを試みてきました。新しい人が参加しやすいように例会の充実やイベントの企



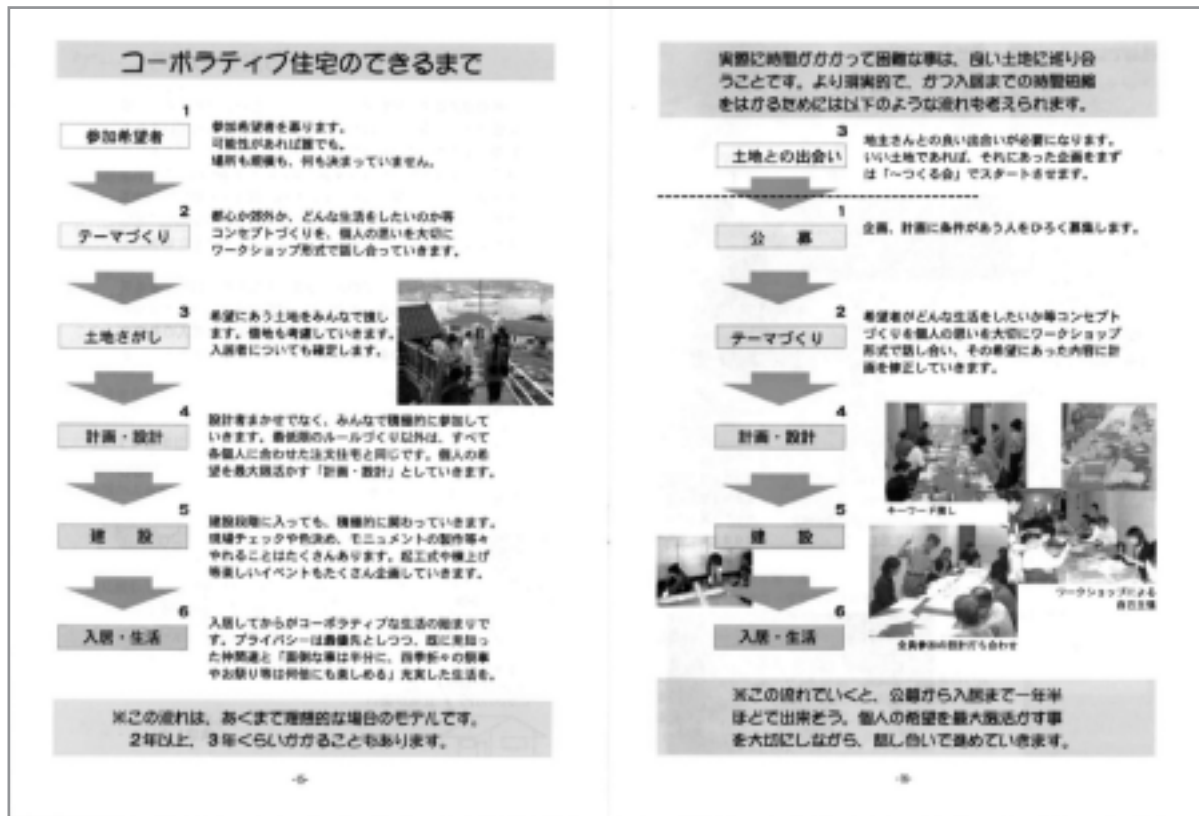
結成5周年記念企画
講演会の様子



結成5周年記念企画
交流会の様子

画、ホームページを使った情報発信などを引き続きすすめていきたいと思えます。

一つのコーポラティブ住宅から新しいまちづくりが、市内に広がっています。



パンフレット「みんなでつくるすてきな住まい」から



コーハウス南山手建設の記録『アカの他人とマイホーム』



結成5周年記念企画のお知らせ